

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和6年7月1日

事業所名 児童サポートセンターのびのび

保護者等数(児童数): 26人 回収数: 24人 割合: 92%

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	15	7	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が多いと狭いと感じる。(1名回答) ・人数が多い時には動線が混雑しやすい。(1名回答) ・活動の際も少し広いと動きやすいと思うがいろいろ難しいこと(運営など)は理解している。(1名回答) 	利用者数が多い時には、子どもたちにとって分かりやすい動線を確保しながら支援をしていけるよう今後も努めていく。またなるべく広くスペースが取れるように活動の内容によって部屋の使い方を考えていく。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	17	4	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数が多いとき少ないときの差がある時がある。(1名回答) ・人によってかなり差があるようにみえる。(1名回答) ・専門性はあるが、人数が少し足りないと感じる時がある(職員さんたちが大変そうに見える時がある)。(1名回答) 	利用者数によっては職員数が少なく感じることもあると思われる。決められた人員配置の中で、職員が広い視野を持ちながら必要な関わりができるようにしていきたい。また専門性について差があるように見えることでもあった。職員のひとりひとりがしっかりと子どもの発達を捉え、適切な関わりが持てるよう、法人で定められた研修等だけでなく、知識を増やす、支援技術の向上が出来るように日々の打ち合わせや反省会も充実させていく。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	19	3	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動する部屋の段差が危ない。トイレのドアを開ける時、人が通るとぶつかりそうで怖い。(1名回答) ・滑りやすい、つまづきやすい場所がある。(1名回答) 	安全面への配慮は随時危険がないか等を検討、改善していけるように努めている。バリアフリー化が不可能な場所もあるので、段差などは見守りや、声掛けを行っていく。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	15	6	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い時と暑い時の差が激しい。もう少し空調を何とかしてほしい。(1名回答) ・夏は暑くて、冬は寒い。(1名回答) 	感染症対策の一環として、常時換気を行っていること、子どもたちの行動の制限をしない為に常時、扉を開けていることが影響していると思われる。夏には冷房をつけながらサーキュレーターを回す、冬場は換気を最小限にするなどの工夫をしている。今後、快適に過ごすための環境作りを随時考えながら工夫を行っていく。
適切な支援の提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	22	1	0	0	未回答1名。 ・いつも詳しく丁寧に作られていてありがたい嬉しい。(1名回答)	ニーズや課題に関して保護者と話し、支援計画を作成していけるように今後も引き続き努めていく。
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	22	1	0	1	・いつも詳しく丁寧に作られていてありがたい嬉しい。(1名回答)	支援計画には主に本人の発達支援に関して作成している。項目として「家族支援」、「地域支援」は記されていない。しかし、保護者からの聞き取りを行い、支援が必要と感じた時には面談等で丁寧に説明をし、必要性があれば関係機関との連携や情報共有を行い支援を行っている。子どもに応じた支援内容をわかりやすく具体的に設定し、保護者に説明していけるように今後も努めていく。
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	23	1	0	0		保護者と子どもの発達や課題を共有し支援計画の作成をしている。また保護者との面談後には全職員で面談内容や支援計画を共有し、統一した支援に繋がるよう今後も努めていく。
	⑧ 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	20	3	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月連続と飽きると思う時がある。(1名回答) ・活動の目的が明確に分からない時がある。(1名回答) 	活動内容は毎月全職員で検討し立案している。活動を2か月継続する意図としては活動を継続する中で、子どもたちの経験に繋がりが、工夫する姿が見られたりと子どもたち自身に変化が見られ、子どもたちの成長に繋がっていることもある為であるが、目的も含めて保護者への説明が不十分であったと思われる。今後は、保護者に活動の目的と、継続する目的をしっかりと説明できるように努めていく。
	⑨ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6	2	8	8	・コロナがもう少し落ち着いたら機会を作って欲しい。(1名回答)	活動として交流する機会を取り入れていない。保護者からのご要望がある為、今後検討していきたい。

保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	23	0	1	0	・毎月払うお金をもう少ししっかり説明してほしい。(1名回答)	契約時、変更時に書面も添えて説明を行っているが、毎月の集金時には丁寧さが欠けていたと思われる。今後は毎月集金袋をお渡しするときに説明できるようにしていく。
	⑪	児童発達支援がイラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	23	0	0	1		今後も支援計画の作成時、変更時には保護者と共有が出来るようにわかりやすくより丁寧に説明していく。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	20	3	0	1		ペアレントトレーニングに関しては事業所からの発信で父母会にて勉強会として行っている。またたくさん保護者に参加をしてももらえるように2か月連続で開催し、参加できなかった方々には資料の配布をしている。今後も引き続き行っていく。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	22	2	0	0		日頃から保護者ともコミュニケーションを取りながら子どもの状況等を共有出来るように努めている。また必要に応じて保護者、保育園等の関係機関と会議を開き共通理解を図っている。今後も保護者としてしっかりと共通理解や状況説明が出来るようコミュニケーションを取っていけるようにする。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	22	2	0	0		担当者会議を含めて定期的に面談を行っている。今後も定期的に面談を行っていき、随時相談があった際には職員間で検討して助言や支援を行っていきよう努めていく。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	20	3	0	1		月に1回、父母会を開催している。保護者から知りたいテーマや先輩ママを招き、就学についての体験をお話していただいたりしている。またより多くの保護者に参加していただけるように2ヶ月連続で同じテーマにするなど、保護者と相談しながら開催方法を決めている。今後も保護者のニーズに沿った父母会を開催していく。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	20	3	0	0	・いつも聞きたいこと、分からないことを聞くときすぐに対応して下さりすごくありがたい。(1名回答)	保護者から相談等があった時には、子どもの発達や特性もふまえて保護者と共有をしながら、出来る限りその場で対応を行うようにしている。その場で対応が出来ない時には、後日時間を設ける、職員間で検討した後対応するようにしている。今後も引き続き行っていきたい。また面談や申入れの体制、環境は整えている為、申入れ等があったときには迅速に対応できるようにしていく。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	23	1	0	0		子どもそれぞれの発達や特性に合わせ伝え方を変えている。またどのような方法が子どもにとって有効であるかを保護者とも共有するようにしている。また保護者にもその時々に必要なことを情報として発信できるように努めている。今後も個々に合わせ、その子どもに取って分かりやすい方法を保護者と共有していきよう努めていく。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	15	1	1	7		活動予定は毎月作成し配布している。事業所の連絡事項等は毎月行われる父母会の会議事録に記載してもらい発信している。評価表の結果は利用者に配布し、ホームページにも掲載している。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	22	1	0	1		名前などが書かれてある物や個人が特定されるような書類は必ずシュレッダーで処分している。個人情報に関しては鍵付きの書庫に入れて保管している。

非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	21	2	0	1		緊急時対応や感染症に関してはマニュアルを作成しており必要に応じて保護者へ説明や周知を行っている。 防犯マニュアルについては策定は出来ていない為今後法人内で検討していく。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	20	1	1	2		月1回避難訓練を活動として行っている。今後も災害時、安全に避難できるように訓練を実施していく。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	20	3	0	1	・毎回すごく楽しみにしている。今後も変わらずのびのびさんに通いたいと心から思っている。いつも本当にありがとうございます。(1名回答) ・日曜日になると「明日はのびのび」と嬉しそうに話しています。(1名回答)	通所する子どもたちが安心して楽しんで通えるよう、子どもそれぞれの発達や特性をきちんと捉えながら支援や活動内容を今後も引き続き考えていく。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	20	4	0	0		子どもたちだけではなく、子どもと一緒に通ってくださる保護者の方々にも心地よく通っていただけるようコミュニケーションを取っていきたい。 また子どもの変化や成長を共有しながら、職員がどういう意図で子どもたちと接しているのかその都度説明ができるよう努めていく。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 7月 1日

事業所名 児童サポートセンターのびのび

チェック項目		はい	いいえ	無回答	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	0	当日の利用者数によっては手狭であると感じることがあるが座る場所や活動の仕方を人数によって工夫している。	利用者の人数が多い時はスペースが狭くなってしまう。なるべく広いスペースの確保ができ、安全に過ごすことができるように日によって工夫をしている。また片付けられるものはその都度片付ける等をしてスペース確保に努めていく。
	② 職員の配置数は適切である	6	0	0	定められている人員は必ず配置しているが、利用人数によっては少ないと感じることもある。	定められている人員配置は満たしているが、利用人数が多い時や利用者の状況によっては職員数が少なく感じる時がある。職員数を増やすだけでなく、職員の質の向上をしていきながら、職員数が少なくても適切な支援が行えるように今後も努めていく。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	0	同じ部屋でも食事の時にはマットを敷くが、活動時にはマットを敷かないなど子どもたちにとって、わかりやすい環境になるように配慮をしている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	0	毎日、事業終了後には玩具や使用物の消毒、掃除を行っている。	日によっては十分な生活空間がとれていないと感じることがあるが、今ある空間の中で子どもたちが快適に楽しく過ごせるようにしていきたい。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	0	毎日、事業開始前には打ち合わせ、事業終了後には反省会を行っている。しかし事業終了後に担当者会議や学校送迎等の他業務もある為、十分な時間が確保できないことも度々ある。	打ち合わせや反省会、会議などで連絡事項や子どもの様子、支援について共有している。反省会で十分な時間がとれない時には、次の日の打ち合わせや会議等で賄うようにし、職員間で確認しあいながら、子どもの支援など共有出来るように努めていく。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	毎年事業所評価を保護者にはお願いし、保護者の意向を確認している。	評価表でご意見をいただいたことは、全職員で共有し、会議等で話し合い工夫改善が出来るように努めている。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0	毎年、ホームページにて公開している。また保護者には、紙面でも配布している。	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5	0		第三者による外部評価は出来ていない。今後第三者による評価をしてもらう事を法人内で検討していく。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	法人内研修時には、全職員が参加が出来るように勤務を調整している。またユニット内で外部研修にオンラインで参加している。	
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	0	個別支援記録や評価シートを用い、アセスメントを行い、個別支援計画に反映している。	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	0	標準化された評価シートを使用している。	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	0	「発達支援」は支援計画に記載をしている。家族支援や地域支援は支援計画への記載はされていないが、必要に応じて関係機関と情報共有をする為に連携をとり担当者会議などを行っている。	「家族支援」は項目として書かれていないが、「家族支援」や「地域支援」の内容を関係機関と共有し支援に反映している。

	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	1	0	全職員が共通理解の上で支援できていないことが課題である。	全職員でアセスメントを行い、保護者との面談結果を打ち合わせや反省会、会議に機会に共有しているが、ずれてしまうことがある。改めて職員一人ひとりがしっかりと子どもの発達を理解し、見立てが出来るようにしていく必要があると思われる。評価シートでアセスメントを行う時に、発達段階や子どもの特性が確認出来るようなシートを同時に使用していきながら、それぞれの支援の質の向上を目指していく。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	子どもたちの発達に応じた活動を全職員で立案している。		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	0	活動を繰り返すこともある。同じ活動でも内容を変えてはいるが、違う視点も取り入れながら活動にも反映していく必要がある。	継続的に活動を行う際には必ず保護者に活動の意図を説明していくようにする。子どもの発達や状況を把握し、行ってきた活動を繰り返すのではなく視点を変えながら、子どもたちが楽しめる活動を考えて行けるようにする。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	0	個別活動は設けていないが、子どもの発達、状況に合わせて個別に対応しており、支援計画を作成している。		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	毎日打ち合わせを行い、子どもの姿や、支援内容を共有、確認している。		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	0	支援終了後には、その日の子どもの様子や職員の子どものかかわり方などを共有している。しかしその後の他の業務があることも多いため、十分に時間が取れないこともある。	反省会時には子どもの様子や職員の子どもの関わりを共有するようにしている。しかし内容が不十分であったり、支援終了後に他業務があることも多く、十分ではないと感じる。まずは職員がしっかりと子どもの様子や関わりを自己発信するようにいき、時間が十分に取れない時には、次の日の打ち合わせ時や会議時などにしっかりと振り返り、共有をしていけるように努める。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	現象として書いていることもあるが、具体的に支援内容が分かるように書くよう心がけている。子どもそれぞれ、個別記録として残し、次の支援に繋がられるようにしている。	記録はされているが具体性がないことがある。その都度職員で確認し、支援の検証、改善に繋げる。個別支援記録に具体的に記載することを徹底していく。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	個別支援記録や評価シートを使用しながら、子どもに応じて支援計画の見直しを判断している。		
	関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	管理者や児童発達支援管理責任者が参加している。	
		22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	0	必要に応じて、相談支援員、保健師、幼稚園、こども園と連携を取り、会議を行ったり、支援が統一出来るように連携を取っている。	
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	1	0	必要に応じて連携を取っている。また医療機関を含めた支援会議には管理者が参加をして、連携して統一した支援がとれるように努めている。		
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	5	0	主治医や医療機関と直接連絡をとることは少ないが、親子通所のため通院後には保護者から必要な情報をお聞きしている。	必要に応じて関係機関との支援会議を行っている。その際に医師が参加されることもある。また医師に確認していただきたい事は保護者を通して確認をしていただき、共有してもらっている。今後必要であれば、医療機関との連絡、連携が取れるように体制を整えていく。	
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	0	入園に際しては見学から現在までの支援、入園以降も統一した関わりを持っていくように会議等を開催して情報共有を行うようにしている。	今後も継続して行っていく。	

	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	0	就学相談から学校見学、必要に応じては体験に同行しており、子どもの様子、現在までの支援、入学以降も統一した関わりを持てるように会議等を開催して情報共有を行うようにしている。	今後も継続的に行っていく。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	0	他事業所を利用している子どもについては情報共有や支援の統一を目的に連携を取っている。研修に関しては、専門機関の研修を受けている。		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	5	1		事業所としては行ってない。保護者からの要望があれば検討していく。	
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	0	0	管理者が参加している。		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	利用時には子どもの姿から、発達や特性、関わり方などを保護者と共有できるように努めている。	保護者には、子どもたちの行動の意図や、関わる側の意図もしっかりとお伝えできるように努めている。保護者からの思いや、日常の悩み事についても気軽に共有できるように、保護者ともコミュニケーションを取っていけるようにする。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6	0	0	父母会にて、勉強会やペアレントトレーニングを実施している。	今後も保護者からの意見や、保護者にとって必要な情報を把握しながら勉強会等を開催出来るようにしていく。	
	保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	変更時や年度替わりで同意書に同意をいただく時には、必ず説明を行っている。	月々の実費について、内訳の書かれた領収書をお渡しするだけではなく、口頭でしっかりと説明してお渡し出来るように努めている。
		33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	0	定期的に全利用者の保護者と面談を行い、子どもの発達や特性、課題を職員と保護者と共有で把握、理解し、個別支援計画に反映させており、保護者からも同意を得ている。	
		34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	保護者から相談があった時には、その時に対応ができればその場で対応をしている。その場での対応が難しい時には、職員間で必ず検討し、後日保護者に返答、助言を行っている。	
		35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	0	毎月1回、父母会を開催している。事業所の中で、母子分離出来る時間を設定し、保護者同士で交流をしていただいている。	
36		子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	保護者からの相談や申入れがあった時には、その時に対応出来れば対応するように努めている。またその場での対応が難しい時などは、別で時間を設けるなどをして体制を整えている。内容に応じて、周知する必要がある場合は、保護者への周知も行っている。		
37		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	毎月、活動予定表を作成し配布している。会報は、会員限定ではあるが年に4回発行している。事業所内に会報を保管し、保護者が閲覧出来るようにしている。		
38		個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	0	鍵付き書庫にて個人情報を管理、個人情報に記載されているものを破棄する場合は、必ずシュレッダーを使用している。		
39		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	子どもそれぞれに応じた方法やツールを使っている。保護者へも子どもの発達や特性を踏まえて有効な方法を共有するようにしている。保護者への情報提供の方法も掲示のみ、配布を行うなど必要な情報に応じて、情報提供の仕方を変えている。		

	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4	0	地域行事等へ参加する機会はないが、自治会には入っている為、回覧板等のやり取りなど必要に応じてご近所さんとの交流はさせていただいている。	
非常時等の対応	④②	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2	0	感染症対応や災害時対応のマニュアルは作成している。職員への周知は行っているが、保護者へマニュアルの周知は行えていない。感染症に関しては、流行する季節や、事業所内で流行している時、災害時については避難訓練時などに必要な情報を保護者へ周知している。	防犯についてはマニュアルは策定出来ていないため、法人内で検討をしていく。また保護者への周知は行えていない為、今後必要に応じて周知を行っていく。
	④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	毎月、避難訓練を実施している。	屋外への避難経験をしているが、子どもに応じては、避難場所付近への訓練も今後出来るように検討していく。
	④④	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	0		
	④⑤	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4	0	保護者からの聞き取りで対応をしており、必要に応じて検査結果などのコピーを提出していただいている。	対象者がいる場合は今後も保護者に確認するなどの対応を行っていく。指示書等がある場合は提出していただくようにしていく。
	④⑥	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0		
	④⑦	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	法人内で虐待防止研修を行い、全職員が参加している。また日頃の子どもの関わりについて、職員間で気になる関わりがあれば、その都度確認、関わりを検討をし、適切な関わりが出来るように努めている。	今後も職員と子どもの関わりの中で、気になる関わりが見られた時には、意図の確認や関わり方の検討を行い、日頃から虐待への意識を高められるように努めていく。
	④⑧	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	0		身体拘束が必要かどうかを保護者のご意向をふまえた上で職員間でしっかりと検討し、本人の安全確保のためやむを得ず必要と判断した時には必ず事前に保護者へ説明、同意を得るようにしていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。